

和文題目
体操競技の進化～床運動に注目して～
英文題目

Evolution of Floor exercise in Gymnastics

1K10C112-7 小友 翔太郎
主査磯 繁雄先生 副査土屋 純先生

【目的】

体操競技は過去から現在に至るまで多くの歴史が存在していた。ヤーンを始め、過去に存在していた人が現在の体操競技を作り出してきた。体操競技には全6個の種目があり、選手はすべての種目で演技を行い、得点を決定していく。採点を行う審判員と選手は体操競技に関わる全てのルールを理解し、自分で演技構成を決めていく。その採点方法も昔と現在とではかなりの違いが見えてきた。採点方法と同時に、得点の表示も大きく形を変えた。この得点の変化は体操競技の概念を大きく変えることになる。さらに床運動に注目して床の歴史と同時に技の変化、床運動の器具の変化を見ていく。体操競技の技の変化は器具の変化とかかわっているのか、また、床運動の器具を見ていくことにする。体操競技の歴史を軸とした採点方法の変化、得点表示の変化、床運動における特性や器具技の変化を明確にしていくことを目的とする。

【方法】

今回は体操競技に関わる著書から歴史、採点方法、器具の変化をまとめていき、体操競技の源流から現在までの進化の道のり、採点方法と得点表示の変化、床運動に注目した床運動の特性、器具と技の変化を明確にする。

【結果】

体操競技の歴史はヤーンの存在から始まり、体操競技に関わる多くの言葉を残してきた。ヤーンの努力が人々の心を掴み、現在の体操競技の源となっている。ヤーンの母国であるドイツから身近な人々を中心に徐々に世界へと発展させていった。得点の表示と採点方法も格段に進化を遂げている。昔の採点方法は10点満点が上限であったが、2006年から10点満点を越える採点方法に変化した。技の難しさを示すDスコア、姿勢のきれいさを示すEスコアの採点方法を組み入れることで、体操競技は急速に発展した。それもDスコアを上げなければ得点が伸びないため、以前の10点満点が限界の採点方法は姿勢のきれいさを評価してただけに技の難しさはそこまで評価されなかったが、今回の採点方法から技の難しさと同時に姿勢の評価も必要となるために難しい技を取り入れる選手が増え、体操競技のレベルは格段に上がった。審判員も同様に競技レベ

ルに合った採点方法を採用している。

床運動に着目してみると、床にしかない要求が用意されていて、この要求をクリアすることで得点アップに繋がる。器具の変化を見てみると技の進化と器具の進化が平行していて、器具の変化こそが体操競技の進化に直結している。過去の主要な技であったバク転やロンダーもタンブリング技を行うための助走の一つとして変わっていった。

【考察】

体操競技の生みの親であるヤーンが存在が現在の体操競技の進化に繋がっているということがいえる。ヤーンが存在がなければ、体操競技の発展とともにここまで世界的に広がることはなかったのではないだろうか。身近な人から練習や技への取り組みを教えていくことで、徐々に体操競技の面白さを実感してもらい、結果、世界的に広がっていく形となったと考えられる。

得点の決定方法も、過去の10点満点の採点方法では技の限界や体操競技の進化に繋がっていかなかったと考える。10点満点という上限を決めないことで、選手は限界が見えなくなったために難しい技への挑戦は止まらず、過去の演技内容より格段に進化したと言えるだろう。同時に審判員の採点方法も変わったことで、採点する側としては難しくなったが、見ている観客側としては以前より多彩なダイナミックな技を入れている演技に魅力を感じていると言える。

床運動の器具の進化はゴムからバネへと進化し、以前より弾むことでタンブリング技の進化に繋がっていると考えられる。器具の進化こそが現在の体操競技の進化に大いに繋がっていると言えるであろう。

体操競技はヤーンの思想から始まり、採点、器具も進化を遂げてきた。これからさらに技と器具の進化を見ていき、より魅力的な体操競技へと進化していくであろう。